

令和7年度 第2回 多文化共生推進委員会議事録

開催日時	令和8年2月12日（木）午後1時30分～午後3時05分
開催場所	岡崎市福祉会館 7階 701号室
議事録	社会文化部 多様性社会推進課 齊藤
参加者	【推進委員】川崎委員長、伊東副委員長、井上委員、河口委員 ※本田委員、山崎委員、広瀬委員は欠席 【岡崎市】山田部長、手嶋専門監、本間課長、室田副課長、竹谷係長、鈴井、太田、齊藤 【傍聴人】2名
会議概要	午後1時30分 開会（司会：本間課長） 1 社会文化部長あいさつ（山田部長） 2 議題 （1）パブリックコメントの結果について（齊藤） （2）多文化共生推進基本計画について（齊藤） （3）次年度計画について（齊藤） 午後3時05分 閉会
内容	2については、議題ごとに岡崎市から説明後、質疑応答・意見交換を行った。 2における質疑応答・意見交換の内容は下記のとおり。 <u>(1) パブリックコメントの結果について</u> ・1について、入管の資料は日本全国のものか？【河口委員】 →日本全国の資料。【事務局】 ・愛知県や岡崎市の件数はあるか？【河口委員】 →警察署の所管ごとの件数であれば、Webで公開されている。【事務局】 →自分の住んでいる地域で外国人による犯罪数の状況を知れば、不安も解消できと思う。定量的に判断できると良い。【河口委員】 ・1について、外国人による犯罪件数と外国人数の相関関係の有無は数字で示した方がわかりやすいと思う。【井上委員】 ・2について、企業、NPO、町内会など、様々な団体と多方面から協働・連携していけるとよい。【井上委員】 ・1について、様々な理由から相互理解が難しい人はいるので、仕方がないところもあると考える。【伊東副委員長】 ・2、3について、外国人の受け入れに関する有識者会議でも意見が出たところだが、育成就労の方が増えれば家族も一緒に来日することが想定されるので、相対的に外国人市民数が増え、地域からも相談が増えることが予想される。外国人に日本で活躍していただきつつ、納税などの守るべきルールはきちんと守ってもらい、地域として外国人と協力・理解できる体制づくりを推進してほしい。そのために、例えば学校や行政主導で受け入れ態勢の整備をしていく必要があると考える。【伊東副委員長】

- 日常的に困っていること（言葉の壁、地域トラブルなど）について、外国人市民から相談はあるか？【伊東副委員長】
→特にない。日本人市民からは、翻訳チラシの作成・配布やごみのルール講座の実施に関する相談等はある。【事務局】
- 宗教に関するトラブルはあるか？【伊東副委員長】
→他市の事例として把握はしている。本市では相談やトラブルは確認されていない。【事務局】
- 義務教育段階での宗教的な相談は聞くことがあるが、成人後はあまり聞かない。岡崎市でそうしたトラブルがないのはとても良いことだと思う。【川崎委員長】
- 多文化共生に興味をもち、市民の方がパブリックコメントにこうして御意見をくださることはとてもありがたい。【川崎委員長】

(2) 多文化共生推進基本計画について

- P6 の上位計画及び関係計画について、どれが上位で、どれが関係計画（どんな部分で関係しているか）か、一覧表だと関係性が分かりにくい。相関関係がわかりやすいものにした方がよい。【井上委員】
→井上委員と同意見。多文化共生がどのように関わっているかがわかるとよい。【伊東副委員長】
→修正させていただく。【事務局】
- 新計画の構成について、前委員会の際に修正した方がよいのではないかという意見があったが、その後、どのような検討があってこの形になったのか、改めて教えてほしい。【河口委員】
→最上層には本市の最上位計画である岡崎市総合計画、中層には分野別の目標、最下層には分野ごとの個別計画や指針等という市の目指すべき計画の構成に準じた構成が最もわかりやすいと考え、現在の形にしている。【事務局】
→市としてどんなところに力を入れていて、どんな方向性を持ってやっていくかというところは最下層の「バリュー」に係る部分であり、最も大切なところだと思う。このバリューの部分のわかりやすくてできると良い。【伊東副委員長】
→今まさに変化している部分（確定していない）も重要であると認識しているが、国の指針とずれのないように進める必要がある。そのため、まずは確定している部分を推進していきたいと考えている。【事務局】
- 協力確認書について、もう少し具体的に教えてほしい。【伊東副委員長】
→特定技能外国人人材を雇用している企業等が、当該外国人人材の活動する事務所の所在地及び「住居地」が所属する地方公共団体へ提出するもの。出前講座や多文化共生施策に資するもの（イベント、調査、周知なども含む）など、多様な協力を求めることができる。市外に本社があり、市内に支社などがある場合は、本社が協力確認書を提出する必要がある。岡崎市では本日現在で 321 社の提出がある。更新は不要。【事務局】
→具体的にはどのような協力を要請することが考えられるか？【川崎委員長】
→生活ルール講座などが考えられる。【事務局】
- ウィズ認証のウィズは何かの略語か？たくさんの企業が認証をとっている？

【川崎委員長】

→「共に」という意味を持つ「with」。男女共同参画に係る計画が「ウィズプラン」と呼称されているため、同じ表現を使っている。令和7年10月1日時点で46社、2月1日時点で56社の企業が認証されている。

・岡崎モデル（名鉄バス）の続編はあるのか？【川崎委員長】

→第1号のかたは、すでにバスで公道を走っている。第2号として2名の方が研修中。【事務局】

・P14の市民活動団体とは？

→ボランティア・NPO法人・一般社団法人・サークル等の環境保護、地域課題解決、文化振興等の公益の目的をもつ非営利団体のこと。【事務局】

・用語集について、言葉を選ぶのが大変だったのではないかと推察する。団体によって用語の説明が違っているので、大変参考になる。もっと充実してもらえると良い。

【河口委員】

→プレクラスは、岡崎に根差した内容が書かれているので良い。【川崎委員長】

・コミュニティ通訳員について、災害ボランティアなど多くの日本人がいるので外国人に限定しなくても良いと思う。【伊東副委員長】

→必ず外国人がやるものではないし、日本人でも参画したい人はいるかもしれない「多言語話者」などの表現に変更してはどうか。【川崎委員長】

→検討させていただく。【事務局】

・外国人市民数の推移について、2020年調査でもベトナムが2位だったか？

【川崎委員長】

→2020年時点ではベトナムが2位になった。【事務局】

→何か考えられる理由はあるか？【川崎委員長】

→ベトナム人は日本全国として、特にものづくりが盛んな東京都、大阪府、埼玉県、愛知県、神奈川県などで増えている。一般的には親日であること、さほど遠くないこと、自国との賃金差があることが考えられる。フィリピンについても同様の傾向があるが、在日外国人数が現在最も多い国は中国。【事務局】

→インドネシアはどうか？【伊東副委員長】

→トップ5には入っていないが、近年かなり増えてきている。【事務局】

(3) 次年度計画について

・国際理解講座でアジア競技大会の出場国を中心に実施とあるが、具体的にどのようなことをするのか？【井上委員】

→国の文化講座、民族衣装や遊びを通じた交流などを考えている。【事務局】

→大会に出場する選手と交流できると良い。【川崎委員長】

→今年1月31日（土）にアーチェリーの国際大会が岡崎市で開催された際、韓国の学生アーチェリー選手団が竜海中学校と交流をした。【事務局】

・愛知県から、具体的な事業実施の打診はあるのか？【井上委員】

→アジア大会組織委員会から県内の自治体に対し、アジアフレンドシップ事業の実施依頼がきている。スポーツ振興課を中心に令和7年度から実施しており、アジア各国の理解を深め交流を図るための様々な事業行っている。【事務局】

- 出前講座は以前から行っているものなのか？令和8年度は特にどのようなことを推進していくのか？【河口委員】
 - 例えば、地域から依頼があった際に当課職員が地域へ赴きごみのルール講座などを実施している。ただ、これまでは依頼があってはじめて実施という形になっていたため、次年度はやり方を検討する。【事務局】
 - 入管が色んな動画をアップしたり、事業者でもある程度教育や周知をした上で要望があるということは、地域では相当困っておりニーズも高いと思われる。受入れ先（会社やアパートなど）でない、普段接していない人から言われた方が効果的なものかもしれない。【河口委員】
 - 地域によっては、総代会が自力で翻訳し、直接外国人市民へごみ出しについて伝えるなどしているところもある。【伊東副委員長】
- 母語保持講座と教育説明会について詳しく説明してほしい。【井上委員】
 - 母語保持講座は、こどもの成長過程で母語が失われてしまうことでこどもにとってマイナスに働くことがないように、これから日本語を学んでいく未就学児の保護者を対象に母語の大切さと維持するための方法を学ぶ機会の提供するため、専門家にお越しいただいて毎年1回未就学児の親を対象に実施している講座。教育説明会は、これから受験を迎える中学校3年生の保護者を対象に実施しており、日本の教育制度、必要な費用などについて説明している。令和8年度からはこども日本語教室の事業内で実施し、早期に日本の教育過程について保護者への周知を行っていきたい。【事務局】
- 子ども日本語教室について、夏と冬のターゲットは同じ年齢層か？【河口委員】
 - 同じ。年長児を対象と考えているが、急な来日等で学ぶ機会がない、日本語を学ぶ機会をできるだけ作りたいなどの事情があるケースもあるため、年中児も対象にすることを検討している。【事務局】
- ぴかぴかサポーター養成講座はどのくらい実施しているのか？【川崎委員長】
 - ぴかぴか実施前に1,2回実施している。NPO法人トルシーダや一般社団法人Vivarsity（ビバーシティ）の方にも来ていただく予定である。【事務局】
- 昨年は何人のサポーターが来たのか？また、そのうち何人が残ったのか？【川崎委員長】
 - 10人のサポーターが来たが、残ったのはごくわずかだった。【事務局】
- 2025年3月に受験をせず中学校を卒業したこどもが5人いたと聞いた。受験に向かうのに必要な力がないために受験できないというのは大変悲しい。岡崎市でも広く勉強の機会を設けることはできないか。【伊東副委員長】
 - 豊川市の「こぎつね教室」の見学について打診した。こぎつね教室では、所謂プレスクールを12週間連続で運営しており、他にも小学生や中学生を対象とするクラスもあると聞いている。御指摘の件もふまえて、好事例を学ぶことで取り入れられるものがあればと思う。【事務局】

岡崎市多文化共生推進委員会委員

R7.11.1－R9.10.31

役 職	氏 名	備 考
委員長	かわさき なおこ 川崎 直子	愛知産業大学短期大学教授
副委員長	いとう きよえ 伊東 浄江	特定非営利活動法人トルシーダ代表
委 員	ほんだ かいと 本田 海斗	行政書士会岡崎支部 支部幹事
委 員	いのうえ のりひさ 井上 登永	岡崎地区外国人雇用管理推進協議会 会長
委 員	やまさき ゆきえ 山崎 幸江	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課 多文化共生推進室長
委 員	かわぐち なえこ 河口 苗子	市民公募
委 員	ひろせ やえこ 広瀬八重子	市民公募